

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（例）

【学 年】 小学校 1 学年 〈東京書籍 版〉

【主題名】 自他共に大切にし、いじめはしない （4 時間扱い）

使用教材：「はしのうえのおおかみ」「みんないっしょ」「ダメ」「ころはっば」

【養う道徳性 ※関連する内容項目等】

- ・自他共に、かけがえのない存在であることを自覚し、いじめにつながる行為を断固として許さない道徳的態度を養う。
- ・C 公正，公平，社会正義 B 親切，思いやり A 善悪の判断，自律，自由と責任 B 友情，信頼

【主な学習活動と留意点】

児童の実態 ※肯定的な面やそれを更に伸ばしていこうとする観点からの積極的な捉え方

とても活発に遊ぶことができる子どもたち。自分勝手にしたり、友だちの気持ちを考えずに行動してしまったりする姿もある。

働かせる見方・考え方：様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで多面的・多角的に捉え、自己の生き方について考えること。

	学習活動	配慮点（各教科等，体験活動等との関連）
問題意識を共有する  自分自身との関わりで 多面的・多角的に考える  生き方を考え深める	1 教材名「はしのうえのおおかみ」 B 親切，思いやり（6月） 中心的な発問 くまの後ろ姿を見ていたおおかみはどんなことを考えていますか？ 教材提示の工夫 役割演技の工夫 主題「自分も友だちも大切。」の設定	発達段階を考え、比較的わかりやすい教材を提示することにより、自他共に大切にすることについての主題を設定する。 役割演技をすることで、おおかみの気持ちを実感を伴って考えることができるようにする。
	2 教材名「みんないっしょ」 C 公正，公平，社会正義（7月） 中心的な発問 みんながいっしょに遊ぶために大切なことはどんなことですか？ 教材提示の工夫 役割演技の工夫	生活場面を想起してから教材を提示することで自分自身との関わりで考えることができるようにする。 生活〔自然と関わる活動〕 ・アサガオ栽培 ・学級園
	3 教材名「ダメ」 A 善悪の判断，自律，自由と責任（10月） 中心的な発問 くまくんが謝ってくれたとき、『ぼく』はどんな気持ちだったでしょう？ 発問の工夫 話合いの工夫	くまくんのもやもやした気持ちに迫ることで、ねらう道徳的価値について多面的・多角的な見方を共有できるようにする。 生活〔自然と関わる活動〕 ・秋さがし
	4 教材名「ころはっば」 B 友情，信頼（11月） 中心的な発問 飛んでいくころはっばを追いかけながら、みんなはどんなことを思ったのでしょうか？ 話合いの工夫 主題「自分も友だちも大切。」を自己評価	友だちがいることのよさについてグループや全体で話し合う場を設定することで、自分も友だちも大切にすることのよさを一人一人が理解できるようにする。 学級活動（2） イよりよい人間関係の形成

次学年へのつながり（児童に願う姿）

いじめがいけないことを理解し、自分も友だちも大切にできるようになっていこうとする気持ちを育む。